

Radiological Aspects of the Liver and Biliary Tract

—X-ray and Radioisotope Diagnosis—

著者 奥 田 邦 雄 千葉大学教授
飯 尾 正 宏 東京都養育院病院部長

京都大学教授

鳥 塚 莞 爾

放射線診断法はX線診断法と RI 診断法に 2 大別され、X線診断法は臓器または障害部位のX線の透過度の相違による structure の描写にすぐれており、RI 診断法は臓器親和性 RI 標識化合物を tracer として臓器に摂取させて、シンチグラフィにより臓器の structure と function の描写にすぐれている。

従来、これらの両診断法はしばしば、別個に行なわれてきたが、非侵襲的検査法として、それぞれの長所短所を考慮して、両者をくみあわせた診断法として実施すべきと考えられる。

本書は肝、胆道疾患の放射線診断法として、これらを集大成させたものである。

第 1 章では肝、胆道系のX線診断法として、腹部単純写真法、気腹法、後腹膜気腹法、断層写真法、バリウム剤による消化管造影法、血管造影法 (celiac angiography, portography, hepatic venography, lymphography など)、有機ヨード剤の経口または静注投与による胆嚢造影法、percutaneous transhepatic cholangiography (PTC), endoscopic retrograde cholangiography (ERCP) などの原理、手技および特徴

が述べられ、RI 診断法として、イメージング装置の説明、各種放射性医薬品による肝、胆道系の機能検査法の原理、手技および特徴が述べられ、ついで、これらの検査法による正常像、normal variant が詳細に述べられている。

第 2 章では門脈高血圧症、肝硬変症、腫瘍、感染症、寄生虫症、黄疸、その他の肝疾患 (ウイルソン病、肝循環障害、トロオトラスト症など) および胆嚢、胆管疾患について、X線写真およびシンチグラムが豊富に掲載されて、これらの疾患における各種検査法による診断的意義が詳細に述べられている。

数多く出版されている肝、胆道系疾患の放射線診断書と異なり、本書はX線診断法と RI 診断法が集大成されたものであり、消化器専門医、放射線科医および核医学医の一読をおすすめしたい。

B 5 / 頁 584 / 図 162 / 写真 819 / 原色図 19 / 表 37 / 1976 / ¥ 17,500 / ㊦ 300
(医学書院刊)